



## 鴿の声

今年の10月は雨に悩まされ、愛犬の散歩は朝晩の気象情報をこまめにチェックし、雨雲をかくぐりながらでした。それでも雨具着用での散歩の回数が多く大変でした。適度な雨は農作物にとつて恵みの雨となりますが、降りすぎても困りものです。特に台風が2週に渡つて襲来し畑作物に与えた影響は大きいものがありました。玉ねぎの産地である近郊の町では風と雨でビニールハウスも飛ばされ、植えたばかりの苗が相当なダメージを受けたと聞いております。やはり近年は気候の変動が大きく、天候に左右される仕事はなかなか難しいものがあります。これからは一雨ごとに冬に向かつて行きますので、体調管理には気を付けながら過ごして行きたいと思えます。

さて、社会生活を営む中で壁にぶつかることはよくありま

す。プロ野球選手のイチローに「壁というのは、できる人にかやつてこない。超えられる可能性がある人にしかやつてこない。だから、壁がある時はチャンスだと思つている。」という言葉があります。人は順境な時にはなかなか成長しませんが、逆境の時には苦しみながらも成長するのも知れませんか。元、東京都墨田区の職員で、現在、(株)天水研究所・社長の村瀬 誠さんは、1981年、保健所勤務の時代に3回程、豪雨による洪水に見舞われ、住民から「洪水対策をしてほしい」という要望を受け、思考錯誤の末、発想の転換から「雨水は天からの恵み」と、都内の大規模施設を建てる際、地下に巨大な雨水を貯蔵するタンクを設置することを思いついたそうです。最初に取り組んだのは、たまたま国技館が蔵前から両国に戻ってくるということに着目し、日本相撲協会に雨水を溜めるタンクの設置

をお願いして、当然のごとく蹴されましたが諦めず、上司に相談して区長にプレゼンしたところ、区長はその話を受け止めてくれ、当時の春日野理事長を説得し、相撲協会は設計変更をして地下に1,000トン入る雨水タンクを設置していただいたとの事です。村瀬さんは上司に「成功の確率は1%もないだろうが、やってみなさい」と言われたそうです。

その後、主要都市の地下空間に巨大な貯水施設・調整池機能だけではなく、雨水を再利用する機能を有した地下施設が沢山あることをよくTVで放映されています。村瀬さんのたどりついた結論は「流せば洪水、溜めれば資源」ということです。ちなみに、東金市のふれあいセンターのトイレの洗浄水は雨水を再利用しているものです。

(総合施設長 齊藤 操)

# ときがね な ひととき

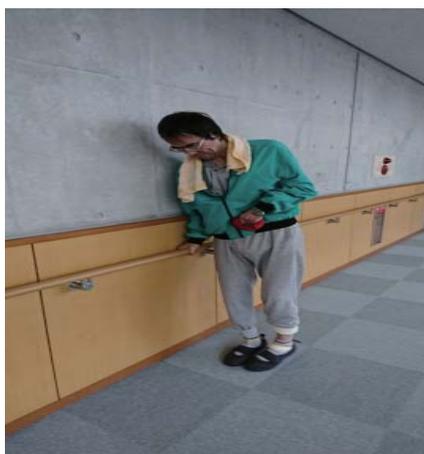
※法人内の事業所の日々の様子をお知らせします。

## 鴛嶺の家（高齢者・障害者）

今年柿が当たり年で、あちらこちらのお庭で沢山の柿がなっているのが見られます。

台風21号は、大変風が強くと東金でも停電した地区があったようです。幸い鴛嶺の家は、停電もなく大きな被害もありませんでしたので、ホッとしています。

行楽の秋と言言葉があるはずなのに、秋の長雨ばかり…気が滅入ってしまうところですが、鴛嶺の家では嬉しいことがあります!!左側に麻痺が有り車椅子で生活されているUさん



が、ご自分から歩く練習をした  
いとおっしゃって下さいました!!  
ネガティブな発言があったU  
さんが、こんなに前向きな気持ち  
になつてくれた事に何より嬉  
しく思いました。手すりがあれば  
歩けるとの事で、ふれあいセ  
ンターや東金アリーナで歩行練  
習を行っています。筋肉がつい  
てきたら、杖を使って散歩に  
出掛けたいですね。と話してい  
ます。今の調子で行けば暖かく  
なる頃には、この目標が達成出  
来るのではないかと期待してい  
ます。

## 鴛嶺の家（児童）

朝晩冷え込む時期がやって来  
ましたね。10月は雨が多く、外  
に遊びに行ける日が少なかった  
ので、そんな日は工作やごっこ  
遊びをして過ごしました。お買

い物ごっこではメニュー表を作  
り、実際に頼みたいものを注文  
してお金のやり取りの練習をし  
ました。また、工作ではハロウイ  
ンの衣装を作りました。各々好  
きなようにアレンジをしまし  
た。テープを貼って骨のような  
形にしてみたり、本を見て書き  
写し、切り抜いたカボチャやお  
ばけを貼ってみました。素敵な衣  
装の完成です。皆で見せ合いつ  
こをして「素敵でしょ♪」と嬉  
しそうなYちゃん。「どうだい」  
とお友だちを怖がらせるRく  
ん。当日もとても楽しみました。

晴れた日には元気にお外へ!!  
蓮沼海浜公園では前日の大雨で  
地面は水たまりだらけでした  
が、子ども達はそんなの気にし



ません。「楽しい!」といっぱ  
い遊び、お昼には持ってきたお  
弁当を皆で広げて食べました。  
普段食べるのが遅い子もペー  
スよく食べていました。たまには  
外で食べるのも、気分転換に  
なつて良いですね^^  
最近、おやつを手作りする  
ことが増えてきました。スタッ  
フ間で試作をしては「上手く  
いったよ」や「失敗だった」な  
ど話し合い、子ども達が楽し  
く美味しく作れるよう、研究し  
ています!

## ぼけっと

寒暖の差が大きくなり、公園の木々が色鮮やかに、赤や黄色に染まって来ました。落ち葉もいっぱい、両手にたくさん抱えては、空に向かって撒いてみたり、友達やスタッフと雪合戦のように遊んだりしています。きれいに払って帰って来るのですが、なぜだか部屋の中に必ず何枚か連れてきてしまう様で「あつたよ」とその葉っぱを探すのを楽しみにしている子どももいます。拾って来たどんぐりで遊んだり、みんなそれぞれにあった楽しみ方で、秋を感じているようです。

秋といえば、ハロウィン！今年、御菓子を入れる袋や衣装、部屋の飾りなどもみんなで作ってみました。「お化けは何色かな？」「何色でもいいんじゃない？」「お化けって怖い顔？」「ん〜笑ってたよ」等々。作りながらの会話もはずんでいた

り、「いつやるの？」とその日を楽しみにしていたり…。ハロウィンの日まで、なんだかワクワクする時間を過ごせたように思います。昨年、御菓子を頂いた事業所に今年も何うと「今年もそんな季節になったのね。どうぞ〜。」と快く引き受けて下さり、お忙しい中有難い限りです。当日は、仮装して外を歩き御菓子をもらいに行ったり、別の日には、御菓子探しゲームをし、部屋中に隠された御菓子をみんなで一斉に探したりしてみました。今年は、全員が参加でき、笑顔だった事が印象的でした。これからも、子ども達と一緒に、過程を楽しみにしながら色々な事にチャレンジしていきたいと思えます。



## サポートセンタースピリッツ

市外に支援で出かける際、必ず公共交通機関を使うのですが、以前よりも障がいのある方にとつて使いやすい、優しいハード環境になつてきた気がします。

例えば、鉄道では、以前は、階段等を駅員さんや周囲に協力を得ながら登り降りしていたのが、昇降機やエレベーターの整備により、当事者自ら1人で又は周囲のちよつとした協力ですり下りがしやすくなりました。バスでは、以前は、車いす等はほぼ乗れない幅、高さのものばかりでしたが、最近、地域によって「ノンステップバス」やスロープ付きのもの等、バリアフリーな設備がだいぶ整ってきました。

タクシーも、以前は、運転手介助の元、座席に乗り車イスをトランク収納という流れでしたが、車いすのまま乗れる車イス対応タクシーや介護タクシー等

が出てきました。

ただ、このような環境や設備は、まだまだ一部の地域やエリアだけで、多くの地域ではあまり整備がすすんでいないのが現状です。

2025年に向けて日本の高齢化はさらに進み、4人に1人、3人に1人が高齢者という時代になつていきます。それに伴い、要支援や要介護の高齢者が増えていきます。いずれは、自分自身も、障がいのある方と同じく移動困難者という立場を迎えます。その時になつて困らないように、地域に住む1人ひとりが、公共交通機関のバリアフリーをしっかりと考え・取り組んでいかなければならないと思つていきます。

私たちもまた、環境が変わる中で、「移動支援」としてどのようなサポートが重要なのかを考えていきたいと思えます。

半そでを着ていた翌日に上着を羽織らなければならぬほど冷え込んだり、10月に台風が来たりとジェットコースターのよな気候に振り回されているこの頃です。本来10月頃は気候が穏やかで、運動会やイベントなど催し物が数多く企画されますが、今年は天候に悩まされたのではないのでしょうか。

10月の行事で最近話題になるのがハロウィンです。この間るとにもかわいいお客さんがやってきました。ドアがノックされ、仮装した子供たちが来所。「トリック オア トリート」と声にしたりしなかったりと様々でしたが、お菓子の包みを渡すと「ありがとう」とお礼を言って帰っていきました。個人的にはハロウィンのイベントに関心をあまり寄せていませんでしたが、子供たちの背中を見送りながら、みんなが喜んで

れるのなら良かったのかなと感じました。クリスマスはすっきり定着しましたが、ハロウィンも同じように私たちの生活に馴染んでいくのかなと思います。実際、年々盛り上がりを見せていますし、障害者、高齢者共にデイサービスなどの施設でハロウィンイベントを企画しているところも増えてきました。来年も子供たちの「トリック オア トリート」が聞けるのを楽しみにしています。



外の木々達が色づきはじめ徐々に寒さを感じるようになってきましたね。先日、ふれあいセンターにてシヨップ当番をしてきました。たまには生活でも販売の体験・経験をしようという事になり、全員で行くことになりました。お客さんがわんさか！というわけではないので、

店番をしながらクラフトバッグやソーイングボックスを作る方、店前のソファでゆっくりする方と活動は様々でした。昼食時には外に出た時のお楽しみ、自販機でそれぞれ好きな飲み物を買いました。この日は午後から同じふれあいセンターにて「ふれあいパーティー」があったので、希望者数人で参加してきました。不参加の方は人混みが苦手だったり、その時の優先順位が違うようだったので、シヨップに残ったり離れたところから眺めたりしました。歌う

のが好きなBさんは、歌いながら手拍子♪みんなで輪っかになって踊りました。ビンゴゲームでは参加したみなさん好きな景品を頂いてきたのですが、Cさんが選んだのはなぜか食器でした。また、パーティーに来た方やボランティアさんの中には知っている方もいたので、久しぶりに会えた事、声をかけてもらった事で、みなさん笑顔になりました。



## ハンドワーク（就労継続支援B型）

風つめたく陽さしあたたかな季節になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。「秋」と言えば、食欲の秋、読書の秋、運動の秋、などいろいろな楽しみが浮かぶと思いますが、ハンドワーク就労では「イベントの秋！」のシーズンになりました。

毎年この季節になると多くの方からお声がけ頂き、土曜日曜にイベント販売の予定がどんどん入るようになりました。利用者みなさん、得意不得意がありながらも得意なことを活かしながら毎日コツコツと小物やクラフトバンドを使ったカゴやバッグ類を作っています。今まで作ってきた小物やカゴ・バッグ類、当日に向けて作った菓子類などをイベントで販売していきます。自分で作った物を選ばれ買われていくのは、やっぱりうれしいものです。カゴやバッグ作りが好きなAさん、先日のイ



ベントで目の前で商品が売れると「うれた・・・！」と小さな声で、でもとてもうれしそうにスタッフに何度も何度も確認していました。さらには、お客様から「もっと大きなバッグを作ってほしい」と注文を受けてやる気満々に！

励ましやアドバイス等々のお声を頂き、利用者さん・スタッフ共々励みになる1日でした。

## ありさ（就労継続支援B型）

ありさで普段飛び交っている言葉を紹介します。

「○○ちゃんカワイイ」↓「ありがとう♡」

「○○君カッコイイ」↓「へっ(//)」

「○○ちゃん大好き!!愛してるよ!!」↓「ありがと!!私も♡」  
こんな言葉を聞かされたら、誰でも悪い気はしないですね。嬉しくなっちゃいます。心が穏やかでいられるのは、こんな言葉が飛び交っているからと、常々感じます。とても素敵な言葉です。でも、一人ひとり人間だもの、それだけではいられません。楽しい事だけが仕事ではないという事です。次は、こんな言葉。

「ダメですか?」

この言葉を言っている時は、ニコニコとしています。その真意は、何かダメなことをしていて、ダメだとわかっているけれど見

て(ダメなところを)直してほしい時です。

「失敗ですか?」

これは、作業中の言葉です。間違えてもやり直せばいいので、失敗というのはほとんどないのですが、ここでの「失敗ですか?」は、わからなくなった。という意味です。同じ作業を繰り返していると、さつきまでできていた作業が急にできなくなる、ゲシュタルト崩壊に似た現象に見舞われるのでしょうか。そういう場合は、他の作業でリフレッシュ!...したいのですが、最後までやり遂げたい気持ちもあるので、切り替えるのはなかなか難しいです。

こんな風に皆で仕事をしていきますが、言葉によって一喜一憂したり、色んな気持ちが隠れていたり、言葉って本当に大事ですね。

## 五根の家（グループホーム）

秋風が冷たく感じるようになってきました。皆さんいかがお過ごしでしょうか？

利用者の方々が生活していく中で、大切なことは色々ありますが、その一つに「食事」があります。食事は栄養補給の為だけではなく、一日の中で一番の楽しみでもあります。スタッフと利用者の方のコミュニケーションの方法にもなる食事。食事中に「この大根の漬けたやつが美味しい。」「このそうめんが美味しい。」「混ぜご飯が美味しいからもう少し食べたい。」「この料理、美味しい。これ何？」などと話される方もおり、笑顔も見られます。以前、カレーライスが出たときには、皆さんとてもよく召し上がられました。また、多くの方がおかわりをされていました。この様子を見て「やはりカレーライスは、老若男女通じて人気のある食事なんだな。」と感じました。



時には、五根の家近くの飲食店に外食することもあります。いつもと違う環境で、好きなものを食べる姿は、皆さんとても嬉しそうです。

これからも、皆さんの食事の好みなどを探り、食事を通じて、笑顔の輪を広げていきたいと思えます。

## 五根の家（小規模多機能ホーム）

10月上旬に中央消防署立会いで防災訓練が行われました。防災訓練は年2回実施しており、毎回、当日にご利用のあるお年寄りの皆さんとスタッフ全員で参加しています。

今回は地震発生後に火災が発生した想定で訓練を行いました。訓練が始まり地震発生のお知らせでテーブルの下に入り込んだり、その場でしゃがんでじっとするといった身を守る行動をとって頂きました。先日、今後の災害対策として購入した防災頭巾も早速活用して皆さんに被って頂きました。

その後、奥部屋からの火災発生者の想定で今度は避難誘導を行いました。消防署への通報や初期消火、避難誘導とそれぞれスタッフが役割を持って行動しました。雨や寒さ対策として雨具や毛布等を持ち出し、また、ご家族への連絡手段としての緊急



連絡網やお年寄りの皆さんの医療情報等のファイルも非常袋と一緒に持ち出しました。訓練の為に訓練にならないように、毎回の反省を活かして出来る限り、実際の災害に近づけた訓練を心掛けたいと思っています。今回の大きな反省点としては、避難誘導後に最終点呼をとっているとお年寄りが一人いな事に気づき、もう一度中を確認すると、地震でテーブルに身を隠していたお年寄りがそのままじっとしているのを発見し、急いで外に誘導しました。これが本当の火災だったらと思うと身の引き締まる思いでした。今後も日々の訓練を大事にしていきたいと思えます。中央消防署の皆さま、ありがとうございました。

## 「ころん」

通勤途中、たわわに実をつけた柿の木をよくみかけます。ですが、大型台風のとすつかり落ちてしまったようです。自然の猛威をまざまざと感じるこの頃です。

10月15日(日)、山武市で毎年開催している「山武市健康福祉まつり」に、ころんも山武市の生活困窮者自立相談支援事業所ブースの一部をお借りして参加してきました。福祉関係団体やボランティア等による各企画ブース(模擬店等)、ステージ発表などのイベントが盛大に行われましたが、ころんでは相談をお受けしている方が制作した作品を展示販売しました。ディスプレイも頑張りました。当日はあいにくの雨模様でしたが、おかげさまで完売しました。午後は雨脚も強まりましたが、足を止めて作品を見てくださった方も多く「かわいい!」、「幻

想的な詩ですね」など、様々な感想をお寄せいただきました。自作の詩で素敵な絵葉書を作ってくれたKさん、ペットボトルや空き缶を再利用してかわいい置物を作ってくれたTさん、そして、お買い求めくださった皆さん、ありがとうございました。これからも地域のイベントに積極的に参加することで、社会参加のサポートをしていきたいと思えます。



## いくりん

肌にふれる風もだんだんと冷たくなり、晩秋の気配が感じられるようになりました。寒くなっても、いくりんの子どもたちはお外が大好き!早くお外に行きたくて、自分で帽子と靴下の用意をしてみます!自分のロッカーも覚えて、次に何をするかをちゃんと分かっているのですね♪ 自分で出来ることが少しずつ増えてきています。

さて、先月からいくりに新しく3人の小さなお友だちが増えました。「いく・りん・ごう」という名前の3人のぽぽちゃん人形です。子どもたちは、ミルクをあげたり、ベッドに寝かせてお布団をかけてあげたりと、それはそれは可愛がっています。「ごはんたべるかな?」と、おままごとで料理を作ったり、おままごとで料理を作ったり、着る子、洋服を選んで頑張らせてあげようとする子。ひとり

ひとりが思い思いに可愛がる姿は、本当に微笑ましいです。子どもたちの「優しくする気持ち」をこれからも見守っていききたいと思えます。

10月末まで子どもたちの美味しいご飯を作ってくれた池坂さん、今までありがとうございました!



「こんにちは」とフライング気味の時間に響く声に、反応鈍く「いらっしやい」と答えて始まったゆーすぽーとのある1日を寸描。土曜・祝日以外は3時開始、2時半の利用者の挨拶に戸惑ったのである。声の主のS君の中学校は、振替休業で早く登舎できたのだ。スタッフの出勤が30分前なのでほぼ同時刻だった。

S君、本日の席どりをして、いつもは麦茶のはずだったが間に合わなくて水を一杯飲んで学習開始。いつもは10分もすると集中力が切れて立ち回るS君だが、若いスタッフを独り占めの学習だったので集中力を切らさず頑張っていた。

幸先よく始まったはずだったが、4時半を回っても2番手が登場しない。毎日、お米を何合炊くか頭を悩ませる炊飯準備の時間が迫る。先週は14人の日が

続いてご飯が不足気味なことがあったのでなおさら悩む。思案の最中3人姉妹の欠席連絡があったので10人と見込んで研ぎ始める。その後2人目は4時45分に登場、それからぼちぼちと集まり、最後の子は夕食20分前の5時40分で、合計9人だった。この日は、調理ボランティアが不在のため、夕食はスタッフが作る日だ。食材にこだわり、手間を惜しまない男の料理を定期的に届けてくださるサポーターがいらっしやって、ストックしてあったミートソースをバターご飯にかけて「ミートソースライス」にして出した。子どもが多い時は失礼ながら増量するのだが、今回は料理人の味そのまま。しっかりお代わりしてくれて、最後は冷凍ご飯まで。スタッフ栽培のなめこ汁付きのスペースナルデイナーにみな満足で、「ごちそうさまでした」の声がいつになく大きかった。

企画・イベント情報

穂垂るの会

介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。

日時：12月14日（木）

会場：ふれあいセンター

2階 創作室

経費：200円（昼食代）

主催・連絡先：

穂垂るの会・井上

(090・7171・1701)

ヨガサロン

健康管理、仲間づくりによりヨガを始めませんか？

旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。

開催日 12月6日（水）

12月20日（水）

※興味のある方はご連絡ください。

ありさ（50・0362）

編集後記

平成26年11月発行の第1号より担当させて頂いておりましたが、今月号を持って担当が変わることになりました。各事業所の日々の様子を読んでくださっている方々に少しでもお伝え出来ていれば嬉しく思います。また、小さな枠の編集後記でしたが、目を通して頂きありがとうございました！！（W）

冬を感じさせる寒い日が続いています。風邪をひかないようにあたたかくしていきたいですね。（S）



ちばしゃ通信  
(Vol.37)

発行日：2017年11月15日  
発行元：ちば地域生活支援舎  
編集責任者：宮下・太齋  
連絡先：0475-53-3630